

令和5年度 桃陽総合支援学校 後期学校評価アンケート

	確かな 学力	健や かな身 体	豊かな 心		教職員				保護者				児童・生徒				病院等関係者													
					よく出 来てい る	大体出 来てい る	あまり出 来てい ない	出来て いない	よく出 来てい る	大体 出 来て いる	あまり 出 来て いない	出来て いない	わから ない	そう思 う	大体そ う思 う	あまり思 わ ない	思わ ない	よく出 来てい る	大体出 来てい る	あまり 出 来て いない	出来て いない	わから ない								
				学習について	①	児童生徒の基礎的な学力の向上を目指した指導を行う。	7.0%	89.0%	4.0%	0.0%	②	子どもが学習内容を理解し、基礎的な学力をつける	15.0%	48.0%	15.0%	7.0%	15.0%	②	勉強はよくわかる	17.0%	56.0%	22.0%	5.0%	③	導入したICT機器等を有効に活用し、工夫した授業がされている	22.0%	59.0%	3.0%	0.0%	7.0%
											③	子どもが話をしっかり聞く	19.0%	52.0%	11.0%	7.0%	11.0%	③	先生や友だちの話をよく聞いている	50.0%	33.0%	11.0%	6.0%							
					③	子どもがICT機器を利用できるように指導する	26.0%	63.0%	11.0%	0.0%	⑤	書籍や新聞タブレットなどを利用して、必要な情報を収集する	26.0%	37.0%	19.0%	4.0%	15.0%	⑤	本や新聞タブレットを使い、調べたり考えたりしている	39.0%	56.0%	6.0%								
					④	自主学習が習慣づく指導を行う	0.0%	50.0%	46.0%	4.0%	⑥	子どもが自主学習の習慣を身に付ける	19.0%	19.0%	26.0%	26.0%	10.0%													
					⑪	わかりやすい授業づくりを工夫する（ICTの有効活用を含む）	15.0%	62.0%	23.0%	0.0%	⑫	学校がわかりやすい授業を工夫する	41.0%	41.0%	7.0%	0.0%	11.0%	⑫	タブレットや電子黒板を使って学習することでよくわかる	29.0%	53.0%	18.0%								
																		⑬	先生は私の質問にいていねいに答えてくれる	44.0%	50.0%	6.0%								
				生活について						①	子どもが楽しく学校に通う	37.0%	44.0%	11.0%	4.0%	4.0%	①	学校生活は楽しい	33.0%	50.0%	17.0%			①	児童生徒は楽しく学校生活を送って	22.0%	71.0%	7.0%	0.0%	0.0%
					②	子どもが相手を意識して聞いたり話したりできるように指導する	30.0%	59.0%	11.0%	0.0%	④	子どもが相手に伝わるように話す	19.0%	59.0%	15.0%	0.0%	7.0%	④	思ったことや考えたことを話している	24.0%	47.0%	18.0%	12.0%							
					⑤	児童生徒がすすんであいさつできるように指導する	19.0%	41.0%	37.0%	4.0%	⑦	子どもがあいさつをする	22.0%	41.0%	11.0%	11.0%	15.0%	⑥	自分からすすんであいさつしている	11.0%	33.0%	44.0%	11.0%	④	来校したとき児童生徒は挨拶する	9.0%	30.0%	18.0%	9.0%	30.0%
					⑥	子どもが場に応じた言葉づかいができるように指導する	7.0%	59.0%	30.0%	4.0%	⑧	子どもが場に応じた言葉づかいをする	19.0%	56.0%	15.0%	7.0%	4.0%	⑦	その場に応じた言葉づかいをしている	22.0%	44.0%	33.0%								
					⑨	子どもが協力して取り組めるような活動を計画立案する	19.0%	69.0%	8.0%	4.0%	⑩	子どもたちが協力して学校生活をおくる	33.0%	52.0%	4.0%	0.0%	11.0%	⑨	相手の人の気持ちを考えて行動している	22.0%	50.0%	22.0%	6.0%							
					⑧	学校の行事のねらいを明確にし、児童生徒にとって意義のあるものにする	7.0%	78.0%	7.0%	7.0%	⑪	学校行事が子どもにとって意義のあるものになっている	41.0%	33.0%	11.0%	0.0%	15.0%	⑩	友だちと一緒に活動すると楽しいTV会議などの活動も含む	33.0%	44.0%	17.0%	6.0%	②	学校行事において児童生徒は生き生きした活動の様子が見られる	40.0%	49.0%	3.0%	0.0%	7.0%
					⑦	社会のルールや生活のマナーが守ることができるように指導する	11.0%	63.0%	26.0%	0.0%	⑨	子どもが社会のルールを守り生活のマナーを身に付ける	26.0%	52.0%	11.0%	4.0%	7.0%	⑧	学校の決まりや約束を守っている	28.0%	44.0%	28.0%		⑤	児童生徒は社会のルールを守り生活のマナーを身に付けている	0.0%	47.0%	38.0%	3.0%	13.0%
					⑬	子どもが自分の健康管理に気を付けられるように指導する	26.0%	63.0%	11.0%	0.0%	⑭	子どもが自分の体のことを気を付けて活動する	22.0%	52.0%	11.0%	7.0%	7.0%	⑮	病院の先生や看護師さんの言われたことを守っている	28.0%	61.0%	11.0%								
					⑩	子どもの良いところを見つけほめる	44.0%	48.0%	7.0%	0.0%								⑪	自分には良いところがあると思う	22.0%	23.0%	22.0%	33.0%							
					⑫	子どもの相談に適切に応じる	41.0%	48.0%	7.0%	4.0%	⑬	子どもが家族や先生に自分の思いを伝える	19.0%	63.0%	11.0%	4.0%	4.0%	⑭	私の悩みや困りごとを聞いてくれる人がいる	39.0%	39.0%	22.0%		⑥	教職員に連絡や相談がしやすい	13.0%	56.0%	22.0%	0.0%	9.0%
				自己理解・キャリア発達に関すること	⑭	児童生徒に関することを主治医と十分話し合い個別の包括支援プランにいかす	26.0%	44.0%	26.0%	4.0%	⑮	学校が個別の包括支援プランについて、わかりやすく説明する	30.0%	41.0%	7.0%	0.0%	22.0%	⑮	自分なりの目標をもって生活している	22.0%	39.0%	28.0%	11.0%							
					⑮	個別の包括支援プランを適切に修正・更新し懇談会やカンファレンスにいかす	4.0%	70.0%	19.0%	4.0%	⑯	個別の包括支援プランにおいて、子どもに合った短期目標が設定されている	31.0%	23.0%	12.0%	0.0%	34.0%													
				教育環境や地域との連携について																				⑦	桃陽総合支援学校のホームページを見たことがある	3.0%	6.0%	27.0%	48.0%	15.0%
					⑮	教育活動の情報をタイムリーにホームページなどで知らせる	27.0%	31.0%	38.0%	4.0%	⑰	学校だより、ホームページなどをみると、学校の様子がよくわかる	22.0%	41.0%	19.0%	4.0%	14.0%							⑧	学校だより、ホームページなどをみると、学校の様子がよくわかる	12.0%	18.0%	21.0%	15.0%	33.0%
					⑰	学校経営方針に基づく予算を立案し、効果的な執行をする	15.0%	70.0%	15.0%	0.0%	⑱	学校が預り金や就学奨励費について十分な説明をする	52.0%	33.0%	7.0%	0.0%	8.0%													
					⑱	保護者・病院・地域との連携を密にして、より開かれた信頼される学校づくりを推進する	11.0%	70.0%	19.0%	0.0%	⑲	学校・家庭・病院・地域が連携して子どもたちを育てる	37.0%	59.0%	4.0%	0.0%	0.0%							⑨	学校・家庭・病院・地域が連携して子どもたちを育てる	6.0%	61.0%	15.0%	3.0%	15.0%
					⑲	近隣地域との交流を通して社会の一員であることを実感できる活動を実施する	0.0%	44.0%	37.0%	19.0%																				
					⑳	児童生徒や保護者に係る個人情報の管理に細心の注意を払う	52.0%	48.0%	0.0%	0.0%																				
				㉑	児童生徒が安全に学校生活をおくることができるように定期的に点検や修繕を行っている。	44.0%	56.0%	0.0%	0.0%																					
個人情報の管理や安全に学校生活を送ることについては、全教職員ができていますと答えている。前期と同様に肯定的な評価をしている項目の中には、「できている」から「大体できている」へと回答内容が変わっている項目が複数見られる。1年のまとめの時期を迎え、「おおむねできている」と答えた教職員が増える傾向にあるようだ。						前期と比較すると、「不十分、できていない」という回答割合が、「わからない」を加えても減っている。年間の積み重ねの中で、子どもたちの変容を肯定的にとらえていただいているのではないかと考察する。その中にある「自主学習」が不十分との回答があり、「学ぶ姿勢の育成」に対する期待があるものととらえたい。						前期に比べると、否定的な回答数の割合がわずかであるが、減っている。行事や、日々の取組の積み重ねで、「やりきった」「自分はこれができる」と感じるものがあつたためと考える。また、人との関係においても、1年の後半を迎え、他者の良いところを認め、「自分とは合わなくても合わないだけ」というとらえ方ができる者が増えてきているのではないかと推察する。						前期とほぼ変わらない回答傾向であった。様々な行事の様子を見ていただく機会もあり、ICT機器の活用の様子も知っていただけたのではないかと実感する回答であった。病棟では、常に院内感染がおこらないよう気を配られている。教職員も気を緩めることなく、対応していくことが求められる。												

教職員は、今年度の取組について、肯定的にとらえている。
地域の資源を利用させていただき、連携することで、児童生徒の変容が期待できるのではとも考えている。コロナが5類対応となったことから、さまざまな制限が緩和されてきている。特別支援学校（病弱）である桃陽では、感染症対策を十分行い、できるところから「地域交流」を再開させていきたい。
学校運営協議会の委員である地域の施設長からは、「感染症対策を行ったうえで、何か交流できることがあれば、機会を検討していきたい」とのコメントをいただいている。コロナ前の交流のスタイルにこだわらず、コロナの対応を経たからこそ考えられる、交流の進め方もあるのではないかと提案もいただいた。

確かな学力の育成： 教職員が肯定的にとらえている項目は、児童生徒の評価と一致している。放課後学習への参加の様子や、授業の出席状況を見ると、「わかる」「できる」を十分体感できていないことも懸念される。学校関係者からは児童生徒は「入院」という特殊な環境の中で、教科の学習以外にも、様々な学びをしている。教職員には、「病気の時だからこそその学び」を展開し、大切にする専門性が求められる。学びの環境を整えること、個々の児童生徒に応じた個別最適な学びを提供できるように励んでほしい。とのコメントをいただいた。

豊かな心の育成： 昼夜を通じて同じ仲間と過ごす子どもたちにとっては、他者の存在が励みとなることもあれば、多少なりともストレスとなることもある。中学生くらいになると、思春期独特の不定愁訴も相まって、自分のコントロールが難しく、思いのままに行動したことにより、落ち着いてみると自己嫌悪に陥ったりする姿を散見する。病院・学校・保護者が連携を取り、外泊など環境を変えることもしながら、様子を見守っていけると良い。

健やかな身体の育成： 医療との連携もあり、自身の体調を把握し整えていこうとする姿勢は見られる。思い描く姿との差や、人との関りから生じる不安やストレスなど心理面で不具合に対し、どのようにすればよいのか持て余している状況がみられる。入院そのものが不安やストレスの多いものであることに立ち返り、自分の気持ちの納め方を取り出して学ぶ機会を継続的に取り組む。

独自の取組： 復学は、個別に、段階的に進めていく必要がある。児童生徒個々の、復学ストーリーを描く視点が求められる。児童生徒自身が「どうしたい」のか、入院中にできること、退院が決まった段階で進めたいことなど、これまでの事例を踏まえて整理しながら、担当者が共有できるように取り組んでいきたい。